

PROFILE

施設	偕行会リハビリテーション病院
所属部署	2階病棟
入職年	2012年
氏名	H・Mさん

精神科の病院での勤務後、転居に伴い偕行会リハビリテーション病院へ入職。回復期の経験は初めてだったが、奥深くおもしろい領域であると感じ、現在も患者さまの個別性にあわせて看護を提供できるようスタッフと力をあわせて働いている。

①自分にとってのやりがい

回復期においては後遺症を抱えながらも自宅へ退院される患者さまが多く、環境調整や自宅での生活に必要な指導を行う。偕行会リハビリテーション病院に入職してからその難しさを知ったというH・Mさん。

(H・Mさん)

「患者さまそれぞれに必要な指導は違います。

家に帰ったらひとりでいる時間が多いのか、家族がいるのかなど環境が異なったり、生活していく中で必要な治療や介護もさまざまです。

患者さまの今後の生活に介入できるところがやりがいのひとつだと思います。」

偕行会リハビリテーション病院ならではの業務の中に、ナースリハビリというものがある。

(H・Mさん)

「ナースリハビリは、リハビリの間の空き時間などに病棟の中で看護師が行っています。

ちょっとの時間に患者さまの目標値にあわせて無理なく行うものです。

一緒に談話室まで歩いてお茶を飲むだけでも立派なりハビリです。

患者さまの動作に変化を感じるときや、

以前よりも良くなっていることを患者さまと一緒に実感できたときは嬉しく思います。

看護師は24時間患者さまを見守っているので、夜の様子が分かるのは看護師だけです。

他職種に共有しながら患者さまの目標値にあわせて一緒に回復に向けて努力していきます。」

②回復期リハビリテーション看護師として

2017年の研修に参加し、2019年に回復期リハビリテーション看護師の認定コースを取得。

(H・Mさん)

「当時は6日間の研修があり、講義を受けたあと印象に残ったことをレポートにして提出します。

学んだことの中から病棟に還元したいことを書くレポート作成では、上司のサポートもあり安心して取り組むことができました。
回復期について多くを学んだいい機会でした。」

資格取得にあたっては病院独自の資格取得支援制度を設けており、それを活用して勉強したという。

そんなH・Mさんに今後の目標を聞いた。

(H・Mさん)

「私の今の目標は、回復期リハビリテーション看護師としての活動をもっと実践していくことです。

学んだことはたくさんあるので、病棟に還元できるようにしたいと思っています。

また、これから認定看護師の資格取得を目指す人のサポートにも力を入れたいです。

私自身レポートの作成などでは上司にたくさん助けてもらいました。

私も同じように手を差し伸べ、よりたくさんの人に認定看護師資格を取得してほしいなと思います。」

③得るものがたくさん！

(H・Mさん)

「偕行会リハビリテーション病院は病棟の雰囲気良くて働きやすいと感じています。
明るく、笑い声もたくさん。私はいつも楽しく仕事をしています。」

回復期での看護については、病気を良くするというより、患者さまに自宅に帰ってもらうことや、患者さまの立場にたって考えることがより重要になってくる。

もちろん大変なことはたくさんあるが、その分患者さまの良い変化もたくさんあるという。

(H・Mさん)

「退院された方が顔を見せにきてくださったり、

入院当初は重症だった患者さまが退院時にはすっかり回復されていたり、

回復期は患者さまのその後に関わるとても素敵な領域です。

患者さまと一緒に回復の喜びを分かち合えるような方とぜひ一緒に働きたいです！」